

ラダー評価表 ラダーF-1

氏名

評価日 年 月 日

4: 現ラダー以上ことが出来る 3: 一場で予測的判断が出来る 2: できる 1: 到達までには課題がある

レベルIの定義		ケアの受けてに合う個別的な看護を実践する							
項目	【レベル毎の目標】	【行動目標】	実際例	成果と評価できる行動	自己評価			他者評価	
					/	/	/		
ニーズをとらえる力	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	□ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる	診療記録など決められた枠組みに沿った情報収集だけでなく、個別性を踏まえ、多職種からの情報も得て、患者にとって必要な情報収集を行う	4 3 2 1					
			生活習慣など相手の生活を細部までとらえ、患者・家族(または患者を取り巻く人々)の希望も踏まえ、入院生活や退院調整に必要な情報を得ることができる	4 3 2 1					
		□得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	患者から症状の訴えがあった場合、原因として患者の体内で起こっている現象を考えるなど、正確なフィジカルアセスメントができる	4 3 2 1					
			患者の状態に合わせて、標準的な観察項目だけでなく、必要に応じて観察項目を追加する事ができる	4 3 2 1					
			自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している社会的な側面から患者の課題をとらえる	4 3 2 1					
			情報収集をもとに、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面のあらゆる情報から総合的に患者をとらえ、優先度の高いニーズをとらえる	4 3 2 1					
自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面を関連づけて患者の課題をとらえる	4 3 2 1								
ケアする力	ケアの受けてに合う個別的な看護を実践する	□ケアの受け手の個性に合わせて、適切なケアを実践できる	患者の個性に合わせた適切なケアができる	4 3 2 1					
			□ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる	患者のニーズを的確に捉えてケアの方法を選択する					4 3 2 1
		□ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる	重症患者や医療依存度の高い患者に対しても自立してケアを実践できる	4 3 2 1					
			患者に対して指導をする場合、患者の生活習慣や価値観、希望などを考慮して説明することができる	4 3 2 1					
		□ケアの受け手の状態に合わせた看護実践ができる	観察して患者の状態を把握し、必要に応じてケアの時間調整ができる	4 3 2 1					
			患者の状態を把握し疼痛コントロールなどを実践してからケアを行うことができる	4 3 2 1					
急変時に家族(または患者を取り巻く人々)等に配慮することができる	4 3 2 1								
協働する力	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる	患者に関わる多職種の役割を理解できる	4 3 2 1					
			必要に応じて多職種の協力の必要性に気づき情報交換できる	4 3 2 1					
		□ケアの受け手とケアについて意見交換できる	患者の疾患の現状、検査結果、治療方針を担当医と確認できる	4 3 2 1					
			患者の訴えや受け止めている思いを担当医に伝えることができる	4 3 2 1					
		□積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	看護チームに担当医や多職種の情報を共有し、看護の方針を確認できる	4 3 2 1					
			カンファレンスに参加し、積極的に発言することができる	4 3 2 1					
カンファレンスに参加し、患者の思いや希望等の必要な情報を関係者と共有できる	4 3 2 1								

